

# ワードをInDesignに読み込む最良の方法 – 試論

[文字組編 Y方式-Part1]

Ver.1.06

山崎 亮一

I. 原則的考え方	2
II. 実験でわかったこと	2
実験結果一覧表	3
III. 基本的な作業の流れ	4
本文処理の流れ (「太字」「斜体」がある場合)	4
本文処理の流れ (「太字」「斜体」がない場合)	4
画像処理の流れ	4
表処理の流れ	4
IV. 準備	5
準備1 — 無料ソフト「OpenOffice」をインストールしておく	5
準備2 — InDesignの新規ファイルに「本文」段落スタイルを作り2点を設定しておく	6
準備3 — InDesignの新規ファイルに2つの「文字スタイル」を設定しておく	6
準備4 — ワードに「色つけマクロ」をインポートしておく	6
準備5 — スクリプト「ワードから配置の補正」を実行するための準備	8
V. 読み込みの手順	9
手順1 — ワードの「太字」「斜体」にマクロで一挙に色をつける	9
手順2 — OpenOfficeでRTF保存	9
手順3 — RTFファイルをInDesignに読み込む	9
手順4 — スクリプト「ワードから配置の補正」を実行する	10
VI. 実例集 — Before After	11
実例1 — 筆者作のワードでテスト	11
実例2 — 変な強制改行が入る	14
実例3 — ルビがずれたり欠けたりする	16
実例4 — OpenOfficeの副作用を補正する	18
実例5 — 文字カラーが一部RGBになっている	19
VII. ワードの画像について	20
ベクトル画像	20
ビットマップ画像	20

※実行するのはIVのみ

## I. 原則的考え方

- 最近、出版・印刷物の原稿がほとんどMSワードで入稿されるようになってきた。学会誌の原稿募集要項にも「ワードで入稿」を義務づけているケースも増えている。  
そのワード原稿には、文字データのみならず、写真、図、表も含まれていることが多い。それらは、解像度や作成方法がまちまちで、そのままでは印刷に適さないことが多い。  
また文字データについても、単に見出しの指定のみならず、「ルビ」「傍点」「アンダーライン」「上付き文字・下付き文字」「斜体」「太字」「ページ脚注」「文末脚注」「箇条書き機能」「字下げ」「インデント」「オートコレクト機能」など、ワードの多彩な機能が使われ、それらが組版指定を兼ねている。しかも、それらが一貫した基準で作成されていないことが多い。  
これらを踏まえた上で、ワードデータからInDesign組版を可能な限り正確に行うために、必要な知識、手順を確立しておくことが重要になってきた。
- 「ワード」と「InDesign」は別の会社の別のソフトであり、完全な互換性はない、と覚悟する。  
その上で、InDesignの「ワード読み込みオプション」で「何が取り込め」「何が取り込めないか」を知り、「取り込めない機能をどうして補完するか」を研究する必要がある。

## II. 実験でわかったこと

実際に、いろんな条件で実験をしてみたところ、次ページの表のような結果となった。  
ここから、次のようなことが考えられる。

### ● Win, Macに共通していえること

- ワードの「太字」「斜体」は読み込めない。裏技を使う必要がある。
- 「段落1字下げ」に関して、ワードでスペースによる1字下げと「オートコレクト」が混在していることが多いので、InDesign上で一括して整える（後述、10頁）必要がある。
- ワードに「脚注」や「ルビ」がある場合、InDesignに「ワード読み込みオプション」で読み込むと、致命的な不具合がおこることがある（実例、16～17頁）。

### ● Winの場合にいえること

- ワードでdocを開き、「別名保存」でリッチテキストフォーマット保存(拡張子rtf)し、これをInDesignに「RTF読み込みオプション」で読み込むと、「脚注」「ルビ」の不具合は（ほとんど）おこらない。OpenOffice(5頁)を使うとより完全となる。(次頁表、赤枠参照)

### ● Macの場合にいえること

- Mac上のワードで元のdocを開きRTF保存してInDesignに読み込んでも、「脚注」「ルビ」の不具合は解消しない。無料ソフト「OpenOffice」(5頁)で元のdocを開き、RTF保存し、InDesignに読み込むと、不具合が解消される。(次頁表、赤枠参照)

### ● OpenOfficeの副作用とその解消法

- OpenOffice(5頁)からのRTFをInDesignに読み込むと、いくつもの副作用(新たな不具合)が発生するが、山崎作補正スクリプト(筆者編)で解消できる(後述、10頁)。

## 読み込み、実験結果一覧表

	Wordの機能	Windows			Mac		
		WordのdocをWin版InDに読み込み	WordのdocをWinのWordでrtf保存しInDに読み込み	WordのdocをWinのOpenOfficeでrtf保存しInDに読み込み	WordのdocをMac版InDに読み込み	WordのdocをMacのWordでrtf保存しInDに読み込み	WordのdocをMacのOpenOfficeでrtf保存しInDに読み込み
筆者作の実験用Word doc	太字	×	×	×	×	×	×
	斜体	×	×	×	×	×	×
	オートコレクトによる段落1字下げ	△	△	△	△	△	△
	アンダーライン	○	○	○	○	○	○
	傍点	○※	○※	○※	○※	○※	○※
	ルビ	○※	○※	○※	○※	○※	○※
	上付き文字 下付き文字	○	○	※ ベースライン 処理される	○	○	※ ベースライン 処理される
	脚注 文末脚注	× 14頁 フォントが一部不具合	○	○	× 14頁 フォントが一部不具合	× 14頁 フォントが一部不具合	○
	文字カラー	○	○	○	○	○	○
外部から入稿のWord実例	実例2 脚注あり	× 17頁 脚注番号が強制改行マークに化ける	○	○	× 17頁 脚注番号が強制改行マークに化ける	× 17頁 脚注番号が強制改行マークに化ける	○
	実例3 ルビあり	○	× 19頁 ルビが一部欠落。	○	× 19頁 ルビが一部欠落。	× 19頁 ルビが一部欠落。	○
		× 19頁 親文字とルビの位置がずれる	○	○	× 19頁 親文字とルビの位置がずれる	○	○
	実例4 傍点あり	○※	○※	○※	○※	○※	※ 傍点が異常に大きい

不可

可 (※はスクリプトで一括補正する。10頁)

ワードマクロで色つけてInDesignに読み込み、クエリで補正 (10頁) する。

スクリプトで一括補正 (10頁) する。

## Ⅲ. 基本的な作業の流れ

### ●本文処理の流れ（「太字」「斜体」がある場合）

- ①ワードでdocファイルを開き、「太字」を「青色」に、「斜体」を「緑色」にするための色つけマクロ（6頁）を実行しておく。上書き保存。  
以後は、次項の①～③を実行。

### ●本文処理の流れ（「太字」「斜体」がない場合）

- ①ワードのdocファイルを「OpenOffice」（後述、5頁）で開き、リッチテキスト・フォーマット（拡張子rtf）形式で保存する。  
※ワードのdocxファイル（ワード2010以後）は、仕様が変わったようで、要注意。  
OpenOfficeでdocxファイルを開いた時点で、ルビとその親文字がすべて消失する。その対策として、**docxファイルはすべてワードでdoc形式保存**をしてから、この作業を行うこと。
- ②このrtfファイルを、InDesignに配置する（後述、9頁）。
- ③スクリプト「ワードから配置の補正」を実行する（後述、10頁）。

### ●画像処理の流れ

ワード中の画像（ベクトル画像とビットマップ画像）はインライングラフィックスとしては取り込まず、後述（20頁）の方法で補正したものを、InDesign上で配置しなおす。  
詳しくは [画像編] 参照のこと。

### ●表処理の流れ

表は、一旦InDesignに流し込んでから、InDesignの表機能を使って整形する。

### この試論のテスト環境

OS……Windows XP, Mac OS X

ワードのバージョン……Windows版 ワード2003 ワード2010  
Mac版 ワード2011 (?)

InDesignのバージョン……Windows版 CS3, CS5, CS6  
Mac版 CS5

OpenOfficeのバージョン……Windows版 3.1.1  
Mac版 3.1.1

### バージョンのちがいによる問題

- docx形式のワードデータは、InDesign CS3以前のバージョンでは読み込めない。他には、InDesign CS3とCS5で問題になる違いは見受けられなかった。
- ワード2007以前（拡張子doc）とワード2010以後（拡張子docx）では、フォントの色の表示がちがう（6～7頁）。また、ルビの仕様などが相当変更になった模様。**そのための注意点は4頁を参照。**
- アドビのサイト（<http://kb2.adobe.com/jp/cps/404/kb404682.html>）の告知  
「InDesign CS4 は、一部の書体に対して .docx ファイルを読み込んだときに正しいフォントを適用しません。対処方法：Microsoft Word で、文書を .doc ファイル形式で再保存し、その文書を再び読み込みます。」  
その他、.docxファイルを読み込んだ際の不具合がいくつか掲載されている。**対処方法として、.docファイル形式で保存しなおす**ように書かれている。

※2017年3月2日、p6とp8のダウンロード先を変更（Ver.1.06）

ワードをInDesignに読み込む最良の方法－試論  
[文字組編]

---

2012年3月8日 第1版（Ver.1.01）

2017年3月2日 Ver.1.06

筆者 山崎亮一

連絡先 ryo@seseragi-s.com